

7 お米にする

もみすりには、軟式野球ボールの硬さがちょうどいいよ!



①脱こく(穂からもみをとる)



茶わんや牛乳パックの中に穂を入れて引っばると、もみが容器の中に残ります。

②もみすり(玄米にする)



すりばちにもみを1握り入れ、軟式野球ボールでゆっくり上の方ですり上げます。息をふきかけて、もみがらを飛ばします。

③精米(白米にする)



玄米をピンに入れて棒でつき、出てきた粉(ぬか)はふるいなどで落とします。

上手につくるポイント

台風対策

台風などの強風の時はバケツ稲を屋内の冷房が効いていない場所に移動させましょう。

スズメ対策

稲の周りに園芸用の支柱をたて、隙間がないように網をはります。

病虫害対策

はん点などが出た病気の葉や、害虫はその場で取りのぞき、病気の稲は他の稲と離して育てます。バケツの水にボウフラが発生した時は、水と一緒に流し出して新しい水に入れ替えます。

水温管理

水は20～30℃が適温です。水温が高くなりすぎる場合は、水を入れかえましょう。



わからないことがあったら相談室に質問してね!

バケツ稲づくり相談室
☎03-6281-5822

10:00▶17:00 (土・日・祝・年末年始はのぞく)

個人情報の取り扱いについて: いただいた個人情報は、「バケツ稲づくり」事業の資料等の送付やバケツ稲づくりに関する事業のみに使います。

バケツ稲 で 検索

バケツ稲づくりマニュアル

【監修】石井卓朗(国立研究開発法人 農研機構 次世代作物開発研究センター 稲研究領域長 農学博士)
【参考文献】『お米が実った!』(JA全中) 『ジュニアファクトブック 食料・農業・JA 改訂版』(JA全中)
シリーズ『写真でわかるぼくらのイネづくり』農文協編(農文協)
シリーズ『米で総合学習 みんなで調べて育てて食べよう!』横田不二子著(金の星社)
『農学基礎セミナー 作物栽培の基礎』栗原浩他著(農文協)
【編集・制作】株式会社 日本農業新聞

バケツ稲づくり事業

主催: 一般社団法人全国農業協同組合中央会
後援: 文部科学省 / 農林水産省 / 全国都道府県教育委員会連合会 / 全国市町村教育委員会連合会 / 全国連合小学校長会
協賛: 全国農業協同組合連合会 / 全国共済農業協同組合連合会 / 農林中央金庫 / 全国厚生農業協同組合連合会 / (株)日本農業新聞 / (一社)家の光協会 / (一社)全国農協観光協会 / (公社)米穀安定供給確保支援機構
推薦: 全国小学校理科研究協議会 / 全国小学校社会科研究協議会 / 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 / 日本理科教育協会 / 日本理化学協会 / 日本生物教育会



「#バケツ稲」をつけて、SNSで取り組みを発信してね!

耕そう、大地と地域の未来。JAグループ



マニュアル、観察ノート、指導書は、ホームページから印刷できるよ

バケツ稲づくり マニュアル

観察しながら稲を育ててみよう!

バケツ稲づくりカレンダー

こちらを用意しましょう!

- ポリバケツ (10~15リットルのもの)
- 種もみ・肥料セット (※写真と実物は異なる場合があります)
- 土 (黒土、赤玉土(中粒)、鹿沼土(小粒)を混ぜます)

稲が成長する様子



芽出し

種まき

5月



分げつ

(稲の枝分かれ)

6月



分げつがすむ

7月



穂が出る

8月



お米ができる

9月



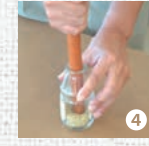
稲刈り



脱こくもみをほす



もみすり玄米にする



精米白米にする

土の準備

土は、「黒土6、赤玉土(中粒)3、鹿沼土(小粒)1」の割合で用意し、ビニールシートなどに広げて乾かして、肥料を混ぜます。

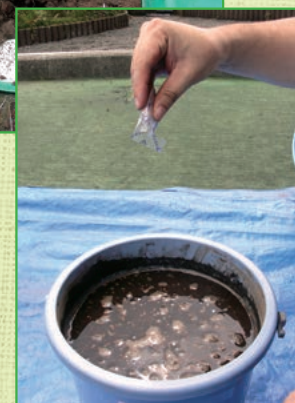
セットの肥料は、チッソ、リン酸、カリの3要素を含む化成肥料で、収穫まで肥料を追加しなくても育ちます。

使用する土の種類と注意点: 黒土の販売がされていない地域で、黒土のかわりに荒木田土を使う場合は赤玉土を2、3割混ぜてください。荒木田土もなく培養土を使う場合は、有機肥料の使用がない、または少ないものを選んでください。土の説明書に肥料入りであるものには最初は肥料を入れなくて、中干し終了後に肥料を入れてください。



▲かわかすと土にすんでいる菌が活気づき、稲の成長を応援してくれます。

▶肥料は、1つのバケツあたり1袋入れます。

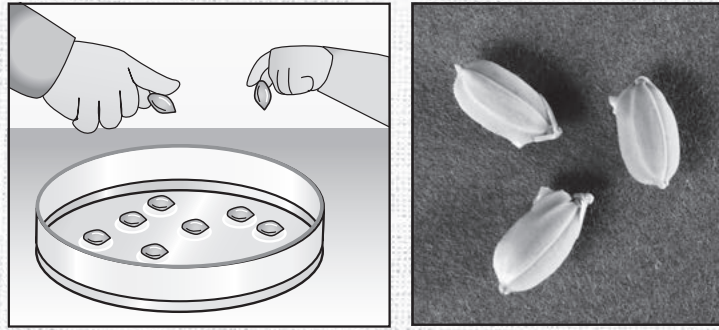


1 芽出し

シャーレなどの浅い容器に種もみがひたるくらいの水を入れます。水にひたした種もみは、室内のあたたかい場所におきましょう。

種もみに酸素がじゅうぶんに行きわたるよう、水は毎日とりかえます。

白い芽(鞘葉)が1mmくらい見えたら種まきできるよ!

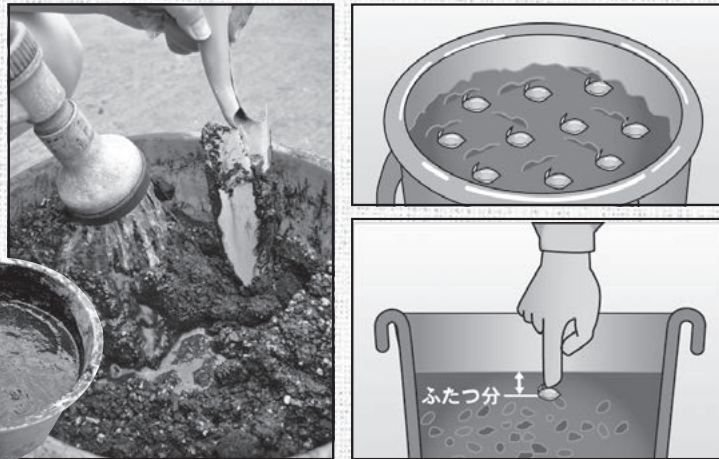


2 種まき

水とよく混ぜて泥になった土をいれたバケツに、表面に水がたまらないくらいの水を入れます。少し離して種もみをまき、深さ6~7mm(種もみふたつ分)ほど指で押し込み、土をかぶせます。土がかわいたら、土の表面が湿るくらいに水をまきます。

土を作る時にセットの肥料を1つのバケツあたり1袋入れます。

種もみをまいた日をメモしてね
※種もみをスズメに食べられないように、葉が5cmくらいのびるまでざるをかぶせます。

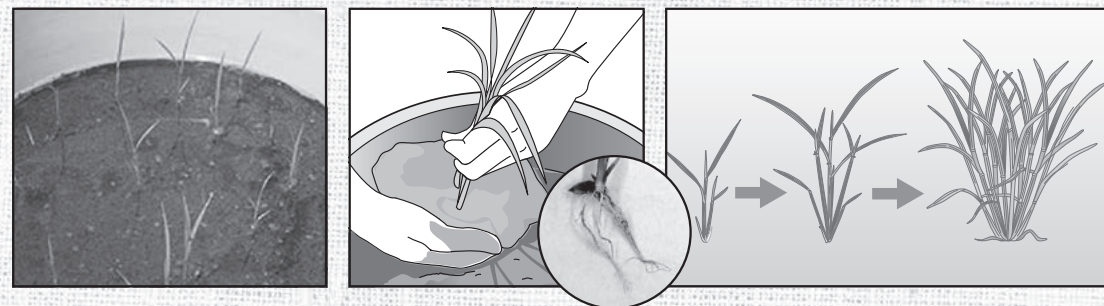


3 苗の移しかえ

葉が3~4枚にふえたら根ごとやさしく苗をぬき、茎が太く育ちのよい苗を4~5本にまとめ、バケツの中心に、2~3cmの深さに植えます。そこに水を1cmの深さに張って、根付いたら5cmの深さに水を張ります。

苗を移しかえた後から茎が増えていきます。このような稲の枝分かれを「分げつ」といいます。

稲の背が高くなって倒れやすくなる場合は、支柱を用意しましょう。



4 なか中ぼし

稲の茎数が20本、草丈が40~50cm程度になったら、1~2日ほど水をぬき、雨が入らない軒下などに移動させます。土とバケツの間にすき間ができればバケツに水を2cm入れ、なくなったらまた2cm入れます。4回繰り返した後、5cmの水を入れて保ちます。

なか中ぼしをすると、土は酸素を取り込み、根は水を求めてのびるので、じょうぶな稲が育つよ!

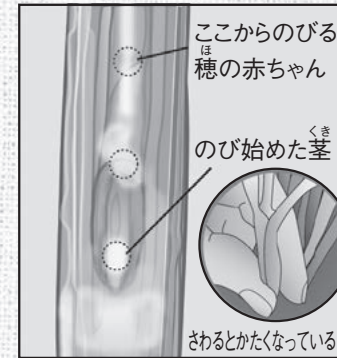


なか中ぼしの注意点

- ・中ぼしの回数は1回です。
 - ・雨が入らず風通しの良い屋外に移してください。
- ※狭い容器のバケツ稲での中ぼしは、過ぎに注意が必要です。葉が細くまるまって針状になったり、色が黄色くなると水分不足です。すぐに水を入れて中ぼしを終了してください。気温によっては1日で枯れる場合がありますので、よく観察しながら行いましょう。

5 お米になる

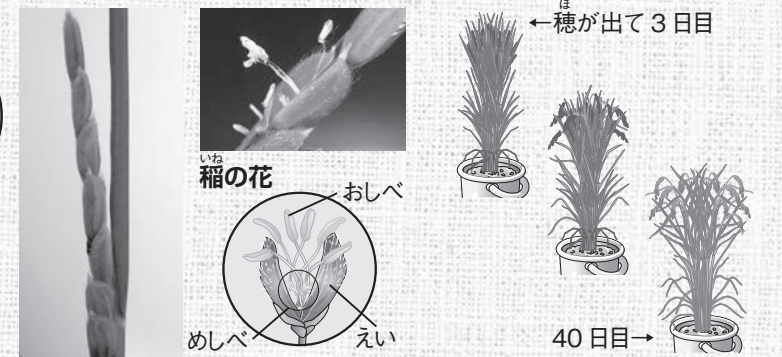
穂が出たらスズメに食べられないように網をはろう!



①穂の赤ちゃん(幼穂)ができる、茎がふくらみ、約20日で穂がでます。

②つぼみがわけて花がさきます。おしべの花粉がめしべにつき、受粉します。

③もみの中のでんぷんが固まって重くなり、穂がたれてきます。



茎がふくらみ始めてから穂が出るまでは5cmの水を保ちます。穂が出た後は3cmの水を保ちます。

6 いね稲かり

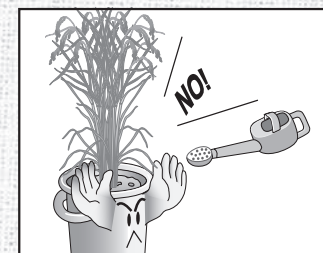


稲をほす時も、スズメに気をつけろ



稲かりの目安は、穂が出てから40~45日ごろ、穂の約90%が黄金色になったころです。その10日くらい前に水をぬき(落水)、かわかしてから稲をかります。かりとったら穂を下にして根元をしばり、風通しがよい場所で10日ほどほします。

①落水する



②稲をかる



③稲をほす

